

1. 評価報告概要表

作成日 平成 19年 7月8日

【評価実施概要】

事業所番号	(※評価機関で記入) 1070500697
法人名	特定非営利活動法人コスモス
事業所名	グループホームコスモス
所在地	群馬県太田市藤久良町68-5 (電 話) 0276-31-3972

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成19年6月25日

【情報提供票より】(19 年 5 月 24 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 2 月 1 日
ユニット数	2 ユニット
職員数	15 人
利用定員数計	18 人
常勤	11 人
非常勤	1 人
常勤換算	11.2

(2)建物概要

建物構造	鉄骨造り
	2 階建ての 階 ~ 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	光熱費 8000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,200 円			

(4)利用者の概要(5 月 24 日現在)

利用者人数	18名	男性	1 名	17 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名	
要介護3	4 名	要介護4	6 名	
要介護5	2 名	要支援2	0 名	
年齢	平均 83.5 歳	最低	69 歳	最高 95 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	有坂医院・森下歯科医院・山岸内科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

古くからの住宅地の一角にあり、施設に接する道路には、近隣の人々の往来が多い。建物を取り囲むように花壇が設置され、季節感が感じられる。又、近隣に畑があり、入居者で畑仕事をする事が可能である。地域の行事にも積極的に参加され、この地域で生活されている方々と、同様の生活が可能な環境が確保されている。入居者はそれぞれのペースで穏やかに生活しており、それを職員が家族のようにサポートしている。入居者家族からの信頼も厚い。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	研修会には参加されているが、主な参加者が偏っている傾向がある。鍵をかけないケアについても検討課題となっている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員全員で積極的に取り組んでいる。また運営者、職員は前回の評価結果の課題を十分理解しており、改善できるよう前向きに取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議には主に地域住民が参加しており、地域の中でのホームの存在について検討されている。会議の中で、回覧板にホームの広報紙を取り入れて貰える事になり、実際に活用されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族への入居者の状況報告は、月に一度確実に行われている。又面会の際にも担当職員を中心に積極的に声かけをし、家族の意見を伺うように努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域行事や自治会活動には積極的に参加している。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な環境の下、自立した日常生活を営むことができるように支援するという理念がある。	○	「地域のなかでその人らしく生活する事を支えるケア」の具体的イメージを持った理念を盛り込むことを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、毎朝の朝礼(申し送り)の際に理念を読み、確認し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事や自治会活動に積極的に参加している。祭りのみこしの休憩場所として施設駐車場を提供している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員で積極的に取り組んでいる。また運営者、職員は前回の評価結果の課題を十分理解しており、改善するよう前向きに取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、地域交流にも活かされており、ホームの広報紙を回覧板に取り入れてもらったり、利用者、家族、地域住民、ふれあい相談員等幅広い参加者がみられる。その中でも特に家族からの意見がホームでの具体的なサービスに取り入れられている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者は市の元気おとしより課に積極的に足を運び、管理、運営の相談をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に一度、身体状況(受診状況)、日常生活の様子、その他行事予定等の連絡事項をお便りとして個別に報告している。その際に金銭管理状況も報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	担当職員や管理者が面会時に積極的に家族と接して、意見を聞きだし、それらを運営に反映させる努力をしている。また苦情相談窓口も設けている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的には各ユニットの職員を専従として、なじみの関係を築いているが、職務の負担感を軽減するために、希望者にはユニット間での異動を考慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加した際には、月1度の会議でその報告をしている。研修報告書はまとめて職員がいつでも閲覧できるようにしてある。特に医療面の研修では協力医師による講習会を開催し、緊急時の対応に備え、職員の育成に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームとの職員の交流研修を行いお互いのホームのサービス向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用時には必ず本人、家族に見学してもらっている。併設の通所介護の利用者の移行利用は、なじみの関係が築かれており、良好なサービス開始を実践している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者にも、掃除や洗濯干し、調理等家事に参加してもらい、お互いに協働し生活できるような場面づくりや声かけをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中でその利用者の希望や意向を確認するように努めている。具体的には入浴は本人の希望を確認している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者がアセスメントや家族、本人の意向を確認し、介護計画作成されている。その計画は月1回の全員参加の職員会議でも検討されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、月に一回の職員会議で実施している。また利用者の状態に変化が見られた場合は、対応方法の話し合いの場を適宜もうけ、その時の利用者の状態に合った介護計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設の通所介護からグループホームを利用する際はなじみの職員、環境での住み替えができるように支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医の他、利用前からのかかりつけ医への受診も可能である。家族が同行できない時には施設職員が受診介助を行う。協力医がホームに出向いて訪問診療を行うことも可能である。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の状況にあわせて、その都度施設での可能なケアを行っている。その際は家族やかかりつけ医、職員と話し合いを持っている。	○	今後は重度化した場合や終末期の看取りについての必要性を職員と話し合い、施設の方向性を検討していただき、実行することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入浴が他者と同時にならないように、一人ひとりで入浴するなど、個人のプライバシーを守る配慮をしている。また自室の引き戸には小窓があるが、曇りガラスを取り入れている。個人記録の管理は施錠可能な場所で行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴時間等1日の流れはあるが、居室で静かに過ごされる方、テレビを見ている方、利用者同士で談話されている方等一人ひとりのペースを尊重している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や片付け等利用者と職員が共に行い、職員と利用者は同じテーブルで食事を摂っている。食事中は会話を楽しみながら、介助が必要な方には支援をおこなっている。食形態は個々の状態に合わせて食べやすいものになっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりのその日の希望を確認して入浴時間等調整し、支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の能力に合わせて、食事準備や配膳、後片付け等、生活の中で可能な仕事をお願いしている。	○	アセスメントの際に過去の生活歴に目を向ける事で、これまで以上に本人の役割や生きがいを明確にし、個別支援に取り入れる事を期待する。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	週に1度買い物に出かける日が決まっており、利用者の希望や体調に応じて近くのスーパー等へ食事の買出しのため、毎日出向している。散歩を兼ねてホーム所有の畑で野菜をとりにも出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関や事務所には鍵をかけて、安全管理をしている。	○	ホームは過去の経験から施錠の必要性を強く感じているが、個々の外出傾向を把握する事や、施錠の代替方法を検討する事で、鍵をかけないケアの実践に取り組む事を期待する。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回利用者と共に避難訓練を実施している。また地域の協力体制については運営推進会議で協力を呼びかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の資格を持つ職員により、献立のチェックを行っている。食事は毎日記録されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フローリング造りの共用空間は生活するには適度な広さとなっている。その中に対面式の調理場があり、生活感がありながら居心地のよい雰囲気があり、利用者が安心して過ごせる空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはベット以外は本人や家族が持ち込んだ日用品が置かれている。		